

Q こども食堂を、子どもが安心して暮らせる社会とつながる場にもしていきたいです。子どもの様子で気にすべきこと、気づいたときの対応のヒントを知りたいです。

A 手を差し伸べる必要性は周りの大人が察知しています。各地のこども食堂で実践されている気づきのポイントと、大人が持つべき心構えがあります。

子どもの「あれ？」に気づいた事例

食べ物の取り方

- 持ち帰れる菓子などを大量に取るなどの様子に注意を払う。
- 「きょうだいの分もいい？」と聞かれた時は、家庭環境を知るきっかけになる。
- 食べ物の好き嫌いが激しく、食べられるものは大量に食べる。

服装・身なり

- いつも同じ服を着ている
- 季節やサイズがちぐはぐな服装をしている

スタッフとの関係

- 大人の顔色を過度にうかがい、気を許した大人には甘えて独り占めしたがる。
- 知らない大人や子ども同士では攻撃的
- 心を許したスタッフの顔を見ると急に泣き出すなど不安定

行動

- 帰りがたらない
- 物をよく壊す。破壊行動が目立つ

気になる様子に気づいた後の対応

学習面のサポート

- 大人の手伝いが前提になっている宿題を手伝う
- 学校の授業についていけるように勉強を教える

スタッフ間で共有、つなぎ先

- 気がついたことがあれば、スタッフ間で共有する
- 専門機関などのつなぎ先を考えておく

※「広がれ、こども食堂の輪！活動ガイドブック 地域とのつながりづくり編」(2018年刊行)の内容を再編集しています。

関わる大人が、きちんとした心構えを持ちましょう

「こどもの居場所サポートおおさか」が作成した「ボランティア誓約書」には、こども食堂に限らず、子どもたちに関わる際に心に留めておきたい大切なことが並んでいて、参考になります。

ボランティア誓約書

1. スタッフ及び子どもたちへのあいさつは大きな声ではっきりと行ってください。
2. 子どもたち(男女問わず)故意に身体を触らないでください。(鬼ごっこ等は含みません)
3. 個人的に携帯番号やメール・ラインの番号やアドレス等は聞いたり教えたりしないでください。
4. 男の子だから…や、女の子なのに…等と性別での言葉は使わないでください。
5. アレルギーがある子どももいますので、個人的に食べ物を渡さないでください。
6. スタッフ間や来場者等への金銭の貸し借りや授受はしないでください。
7. 子どもたちへの暴言や暴力と捉えられる行為はしないでください。
8. 子どもたちが自己肯定感を持てるように、良いことはすすんで褒めてください。
9. 子どもの傍でいきなり大きな声を出さないでください。(虐待を受けている子は怖がります)
10. 食べ方が気になる子は情報を共有してください。(ネグレクトの可能性あります)
11. 施設外で故意に個人的に子どもたちに接触しないでください。
12. いつも汚れた服を着ている子や、お腹を空かせている子どもの情報は共有してください。
13. いつも一人ぼっちでいる子どもの情報は共有してください。
14. 子どもにしつこく家庭のことを聞かないでください。自分から話して来る子の話は、静かに否定せずに聞いてあげてください。必要であれば共有してください。
15. 施設内で子どもから聞いた話や、個人を特定しての話は、他の場所で他言しないでください。

氏名

以上、上記のことを厳守いただける方はご署名ください。

その他、子どもたちのプライバシーを守ることも大切です。活動の様子だからと断りなく写真を撮ったり、SNSで紹介したりしてはいけません。

共有すること・つなぐことも大切です

子どもの様子で気になることがあったり、相談させられたりしたときは、スタッフ間で共有し、場合によっては専門機関などにつなぐようにしましょう。

地域で頼りになる人・専門機関の例

- 町会・自治会
- PTA
- 民生委員・児童委員(主任児童委員)
- 子ども家庭支援センター
※名称は自治体によって異なります
- 児童相談所
- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- 母子生活支援施設